

鎌倉市中央図書館

近代史資料室だより

第3号

鎌倉市中央図書館
近代史資料担当
鎌倉市御成町 20-35
電話 0467 (25) 2611

鎌倉海浜ホテル追憶

研究ノート ①
(その3)

前号では、関東大震災でホテルが被害をうけたことを述べた。この号では引き続き震災前後のホテルの状況と、次いで昭和期のホテルについて述べてみたい。

大正五年に明治屋経営に移った「株式会社海浜ホテル」が盛況の内に進んでいたことは、当時の「横浜貿易新報」にもその様子がうかがえる。

例えば大正十一年営業報告には「一般不景気の影響を受けず利益金二万八千五百餘円にして年八分の配当を為し一千餘円を法定積立、五千八百餘円を後期へ繰り越し」（「横浜貿易新報」三月六日）とあり、その後も好成績と宿泊客の賑わいが報じられている。

同七月七日、米国海軍卿デンビー氏一行四十余名を迎え海軍省接待の昼食を提供したこと、七月二十九日にはイタリア人歌手による「歌劇

大演奏会」が催され多数の避暑客により盛会、などと紙面を賑わしている。ホテルの「宿泊料金」など値段入り広告も毎月のように掲載されている。震災はまさに保養地として最高潮にあったホテルや鎌倉町を襲ったといえる。

鎌倉テニストーナメントの始まり

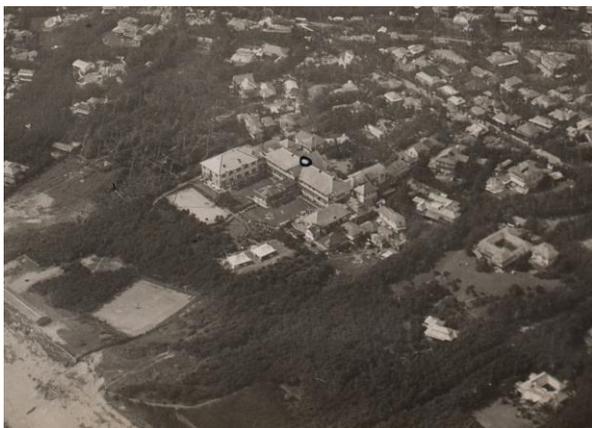
ここで注目されるのは、現在の「鎌倉ローンテニス倶楽部」につながる、テニストーナメントが海浜ホテルのコートで開始されたことである。大正九年（1920）アントワープ第七回オリンピックで熊谷・柏尾組が初の銀メダルを獲得し、続いてデビスカップ杯に日本選手が活躍するというテニス熱の高揚の中で、ホテルでは海寄りの松林の中に五百坪のコート（二面）を新設した。そこへ大正十二年四月一日に、熊谷・野村・福田の有名選手を招待し、コート開きを盛大に行い、七月二十八日には第一回鎌倉トーナメントが時事新報社主催で開かれた。次の年七月の第二回トーナメントも、震災後一

目次

- ◆ 研究ノート① 1
- ◆ 鎌倉海浜ホテル追憶（その3） 1
- ◆ モニュメント③ 6
- ◆ 海濱ホテル記念碑 6
- ◆ 平成26年度郷土資料展記録 7
- ◆ 古写真（都筑写真館今昔） 11
- ◆ 古文書（関谷平井家文書） 11
- ◆ インタビュー（むかし語り）③ 12
- ◆ 「あぐり舟」加藤茂雄さん 12

年以内にもかかわらず海浜ホテルコートで行われたとある。『横浜のテニス百年の歩み』震災直後、九月九日、横須賀海軍航空隊が空から撮影した海浜ホテルの写真によると、建物の一部は被害を受け、周辺の松林に津波が押し寄せてはいるが、立派な本館の建物の全容が見取れる。またテニスコートも見える。（アジ

ア歴史資料センター「震災写真帖 第二輯」よりー原本は大正十二年公文備考「震災写真帖」（旧海軍省）防衛省防衛研究所史料室所蔵



昭和初期の海浜ホテルと

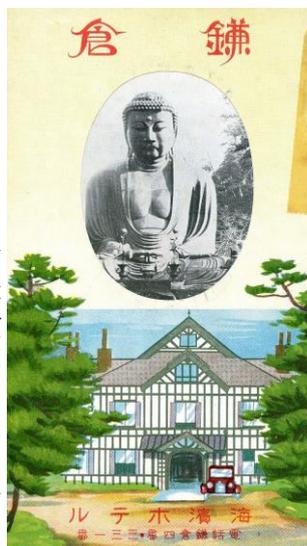
支配人春田助太郎

震災後いち早く復旧作業に入り、翌大正十三年六月には営業を再開した。復興工事で冬の暖房のために大資金を投じてラジエーターを設置した。のちに支配人となった黒川威は、『嗜好』434号の紙面に次のような思い出を載せている。「冬の海浜ホテルの客室の中にはマントルピースがあつて薪や石炭をくべて、暖をとる仕かけだった。廊下や食堂は全部ストーブを備えてあたたためていたのが、大正末期になってチームラジエーターをとりつけたから、廊下に出ても冬の寒さを感じさせない」

支配人には、新たに元日本郵船ロンドン支店長を経験した春田助太郎を迎えた（大正十三年九月）。その後ホテルが競争時代に入るなか、大衆向け政策をとりながら新たな時代に踏み出してゆく様子が、何種類も出されたカラー刷り英文パンフレット類から読み取れる。昭和の海浜ホテルは、国内外の客を対象に宣伝とサービスに一層力を入れた時代のものである。

どのパンフレットにも、風光明媚な古い都鎌倉の寺や神社の紹介と共に、海浜ホテルの持つ海辺の健康的な立地条件とそれらを楽しむための設備の充実と暖かいもてなしについて述べている。歴史の町鎌倉と海浜ホテルが一体のものであることを強調している。

昭和十一年から昭和十四年頃発行のパンフレットが手元にあるので、そこからホテルの特色を紹介してみる。

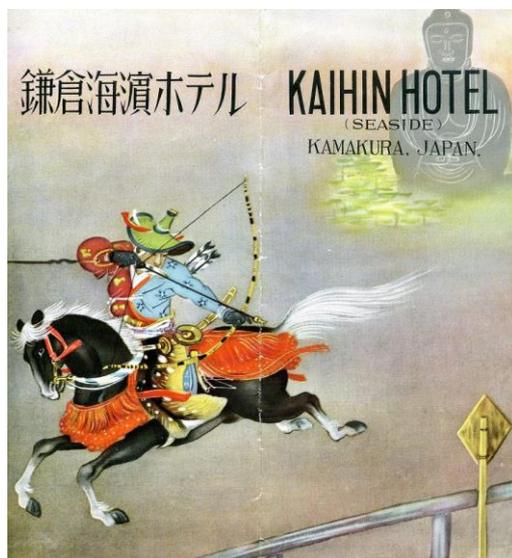


(日本語パンフレット)

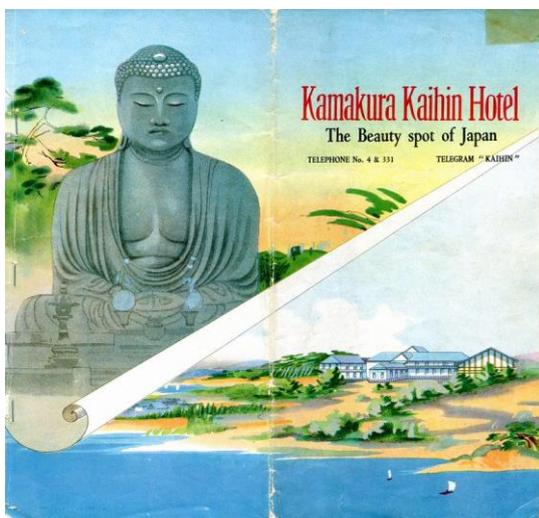
昭和十一年十月発行の英文パンフレットには常務取締役春田助太郎とゼネラルマネジャー G. ASAKAKI の名前があり、ホスピタリティー、清潔そして快適さをモットーにし、どこにも負けない料理と鎌倉の観光情報を提供し、テニスコート、ミニチュアゴルフ、ヨットと釣りそして子ども達のための遊戯室やホールを用意し、「子どものパラダイス」であるとも言っている。(太字筆者)

それに続く大型のパンフレットにも同様な宣伝がなされ、日本語のパンフレットには、「皆さまのホテル」として利用して欲しいこと、ご家庭同様な気のおけないホテルとしてご婦人やお子様に人気があることが強調されている。またホテルと鎌倉駅の間は無料タクシーのサ

ービスがあることも記されている。



(英文パンフレット
春田助太郎マネジングディレクター時代)



市内にはホテルで結婚式を挙げた方や、クリスマスや新年のディナーに家族で出かけて楽しい奇術や大人たちのダンスを見たという子供時代の思い出を持つ方もおられる。

宿泊客には、歌人の与謝野鉄幹・晶子もたびたび滞在して歌を詠んでいる。

わが前の青濃く淡く^{うす}まだらなり

海と云へども心のやうに 晶子

行く春の鎌倉に来て君と見ぬ

半日は書を半日は波 鉄幹

『恋ひ恋ふ君と 与謝野寛・晶子』鎌倉文学館

また詩人の堀辰雄は昭和十五年初め、部屋を借り仕事場としていた。

とはいえ誰でもが気軽にに行けるホテルではなかった。充実した設備と豪華な宿泊客により「湘南の帝国ホテル」と称されていた。

料金については宿泊をとまなうアメリカンプランと滞在だけのヨーロッパプランの二種類があった。アメリカンプランではシングルルームが九円五十銭から（バス付十一円五十銭）、ダブルルームが十八円から（バス付二十一円から）であった。ヨーロッパプランではシングルルームが三円から（バス付五円から）、ダブルルームが五円から（バス付き八円から）となっていた。

戦中・戦後の海浜ホテル

次第に戦時色が濃くなり、昭和十三年三月にはイタリア訪日使節団（クロシャツ隊）が、九月にはヒットラー・ユーゲントが宿泊した。町を挙げての歓迎だった。昭和十六年には、独ソ開戦により、シベリア経由で帰れなくなったドイツ人避難者が多数滞在した。皮肉にもこのことでホテルの経営が持ち直したという。

しかし昭和十九年六月以降は東京空襲から避難してきた「独逸大使館海軍武官事務所」に本館を明け渡すという状態になった。暖房用ラジエーターの鉄類回収も始まっていた。国策として全てが回収される規則であったが、当ホテルで長期静養していた鈴木富士弥市長の働きかけにより、寝室の暖房ラジエーターだけは回収を免れたという。（鈴木原稿）

そして敗戦直後の占領軍接收を受けた海浜ホテルは、不幸にも米軍兵士が倒したストーブの火により出火焼失してしまった。昭和二十年十二月二十五日と翌二十一年一月三日の二度の火災で、従業員宿舍数棟を残し、本館など延べ千三百三坪を失った。（『明治屋百年史』）その火事のすさまじさは、まるで大きな行灯の火が天に昇るようだったと証言されている。

現在、関係者によって当時の銀食器などは少し保存されているが、「宿泊者名簿」など歴史を語る資料は焼失したのか、目にする事ができ

きない。

創立以来六十年近くの歴史を刻み、町の重要な顔として存在し続け、町の商業や文化ともつながっていた建物であった。



焼失後、昭和二十七年に会社の経営は ほぼ麒麟麦酒株式会社に移り、再開発の提案もあつたが、長らく草原が残っていた。

その頃の様子を敷地内の明治屋社宅に住んでおられた山本清一氏が次ページのように略図を書いて下さった。

社宅は元ホテルの厩舎を改造したものであったという。乗馬用の馬を飼っていたからである。子どもにとっては広々とした野原とお花畑や実のなる木々は遊び場として最高だったらしい。友人達も集まって来た。ダンスホールには鍵が無く中で遊んだという。

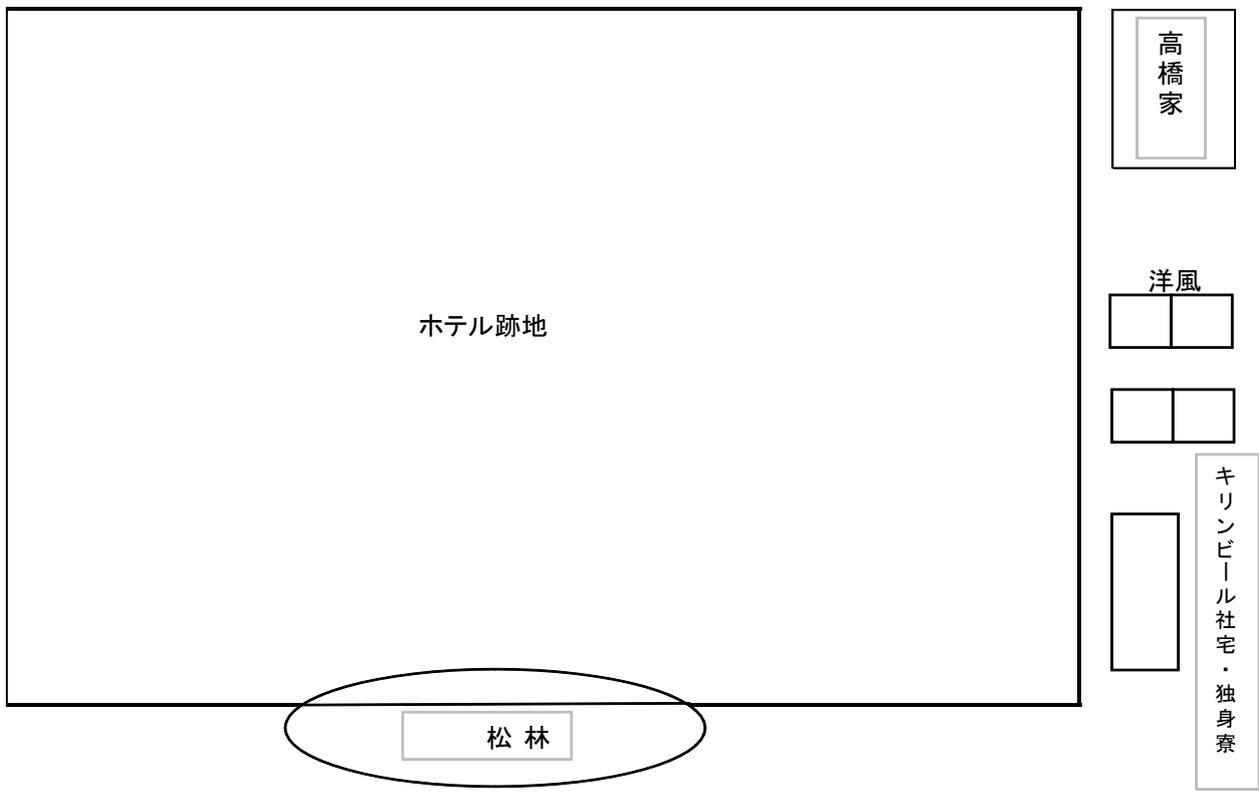
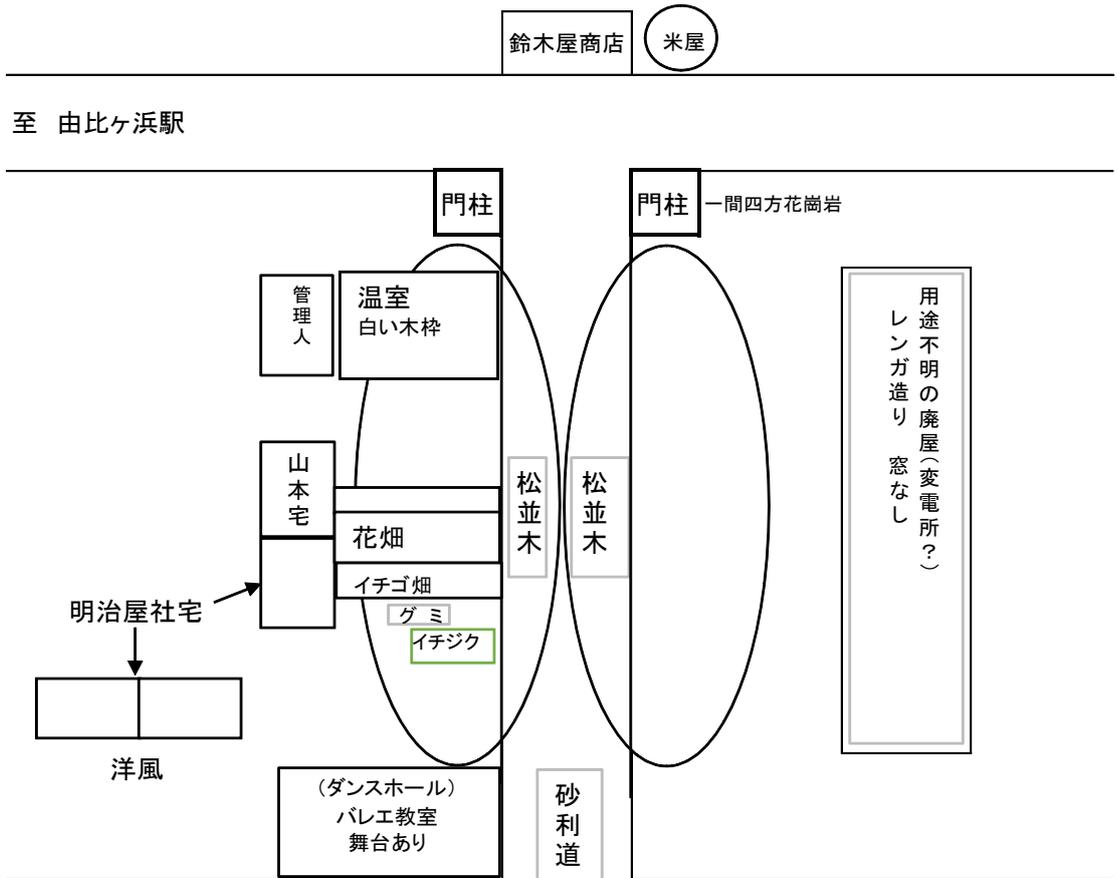
戦後材木座光明寺に開かれた「鎌倉大学（鎌倉アカデミア）」演劇科の学生も、舞台のある建物内で試演会をおこなったという。

その後昭和五十二年（1977）に「株式会社鎌倉海浜ホテル」経営の「鎌倉シーサイドテニスクラブ」として再出発し、かつての海浜ホテルの面影を残しながら市民に親しまれてきた。明治の海濱院時代から平成二十二年（2010）六月に終焉を迎えるまで、百二十年余の歴史を歩んだのである。

平田恵美記

昭和27から37年頃の海浜ホテル付近の様子

山本清一氏記録より



R134号

資料室だより第1号掲載年表より続く

明治40	1907	「当院改築の都合上宿泊のご来客お断り、食事のみの客は平常通り」(「横浜貿易新報」2月5日) 「旧建物修繕出来致し候につき、新築落成までこれを仮用し宿泊食事共従前の通り」 (「横浜貿易新報」3月17日 以後「貿易新報」と記す) 「江島電鉄藤沢鎌倉(大町)間全線開通八月十六日」(「貿易新報」8月17日)
明治41	1908	新館落成 「建物売却広告 新館落成につき附属建物西洋造2階建1棟凡そ170坪売却致したく」 (「貿易新報」5月2日) 「客室40、収容人員50名」(「貿易新報」6月1日) ドイツ人細菌学者ロベルト・コッホ滞在(7月3日～26日)
明治42	1909	「THE JAPAN ADVERTISER, TOKYO」に海浜院ホテル新装広告、滞在者名掲載。(10月22日)
明治45	1912	作家夏目漱石の日記に「浜へ出て見ると海浜院に逗留の唐人海につかっている。云々」(7月22日)
		不景気深刻化 一年間の損失金2万円余 ホテル閉鎖の危機 2代目支配人青山氏より3代目ベルン氏へ
大正3	1914	漱石が「心(こゝろ)」を新聞連載(4月)。主人公が先生を初めて見かけた場面に続いて、海浜院ホテル滞在西洋人海水浴客の服装に触れる。 第一次世界大戦開戦
大正5	1916	「株式会社 鎌倉海浜ホテル」と改称(3月1日) 明治屋磯野長蔵が土地・建物・営業権一切を買得し社長に就任(資本金を12万5000円から60万円に増資) 株主(明治屋・松方乙彦・茂木惣兵衛ら30名) 定款「当社は内外の賓客の宿泊・宴会・貸席並びに酒類・煙草類の販売、及びこれに関連して必要又は有益な事業を営むことを目的とする」(『明治屋百年史』) 芥川龍之介、海浜ホテル隣の西洋洗濯野間宅に下宿 ホテルの使用人の食事を取り計らってもらう。 大正5.12～大正6.9 (相原「海浜ホテル考」『鎌倉』34)
		開業と同時に超満員大盛況(ロシア革命亡命ロシア人の長期滞在による)(「鈴木原稿」) 欧州大戦による好景気で日本人成金紳士のホテル利用著し(「鈴木原稿」)
		ベルン支配人の料理の魅力により千客万来。明治屋から精選された葡萄酒が納入された。滞在者にドイツ人洋菓子職人ユーハイムの夫人エリーゼ・ユーハイム、カフェユーロップの支配人バンホーテン、豚肉加工技術者ウォルシュケなど。(『明治屋百年史』)
大正8	1919	「松香長与先生紀功之碑」大仏境内に建つ(3月)。町制25周年記念 エリアナ・バヴロア、ナデジタ・バヴロア(ロシアより亡命)が横浜ゲーテ座でデビューし、翌日海浜ホテルで上演(8月27日) 米国人奇術師マリニを招き奇術ショー一般公開(会費3円)(『明治屋百年史』)
大正9	1920	新館24室(バス付き)増築(曾禰・中條建築士による)7月 世界日曜学校大会参加者1000人を鎌倉に迎え、休憩所として350人受入れ。(10月)
大正11	1922	第12回総会にて営業成績報告。一般不景気の影響を受けず、利益金2万8000円、500余円年8分 配当、1000余円法定積立、5800余円後期繰越。(「貿易新報」3月6日) 鎌倉海浜ホテル広告(「貿易新報」3月17日) ほぼ毎月広告を出す。 米国海軍卿デンビー氏一行40余名を久里浜訪問の往復途次に迎え、海軍省接待の昼食を提供。 日米協会長洪沢栄一・瓜生大将夫妻同行。ホテル支配人C.M.バアター、香川富太郎、副支配人山内惣太郎、石田伊三郎、常務取締役河田儀四郎(7月7日)(「貿易新報」7月8日) 歌劇大演奏会開催。29日夕、イタリア歌劇演奏家を迎えて、避暑客多数滞在中にて盛会なるべし。 (「貿易新報」7月29日) ホテル賑わう。本月初旬より滞在客ズンと増し賑わう。来春避寒客予約続々申し込み。(「貿易新報」 12月25日)
大正12	1923	テニスコート開き開催。海寄りの松林の中に5000円を以てテニスコート2面(500坪)新設し、4月1日、 熊谷・野村・福田の模範試合、内外人の試合で盛況。(「貿易新報」4月3日) 第1回鎌倉テニストーナメントが海浜ホテルコートで開催。(7月28日) 関東大震災で大破損 大食堂が倒潰 従業員2名圧死(9月1日)
大正13	1924	いち早く復旧開業(6月) 復興工事にて大資金を投じ暖房ラジエーター設置。(「鈴木原稿」) 第2回鎌倉テニストーナメント開催(7月20日 主催「時事新報社」) 春田助太郎支配人に着任(9月)

大正14	1925	ホテルコートにて日米庭球戦(4月15日)。キンゼー兄弟・スノッドクラス・須永・野村参加。主催横浜庭球協会、後援横浜貿易新報社(「貿易新報」)
昭和元	1926	「パヴロア大舞踊音楽会」開催。エリアナ、ナデジタ、研究生達が出演(7月29日～8月1日)
昭和5	1930	カラー刷りパンフレット発行 (『明治屋百年史』)
昭和初		競争時代に入る。春田支配人、大衆向き政策をとり種々の改良を重ねるが不振が続く。
昭和10	1935	歌人と謝野晶子、夫の寛と正月を過ごし、歌を詠む。与謝野鉄幹3月に死去。
昭和11	1936	「夏の土曜日をダンス日として避暑地の明朗化をはかることとする」(「現代鎌倉の記録」『鎌倉』) 英文パンフレット発行(10月 SAKAKI General Manager) AMERICAN PLAN (パンフレット値段表より) Single room ¥9.00&up Double room ¥17.00&up Single room with bath ¥11.00&up Double room with bath ¥19.00&up (後略)
昭和12	1937	外人向けパンフレット発行(6月)
昭和13	1938	イタリア訪日使節団宿泊(3月27日) ヒトラー・ユーゲント宿泊(9月22日～26日)
昭和14	1939	支配人に黒川威、その後1～2年は不振(「鈴木原稿」) AMERICAN PLAN (パンフレット値段表より) Single room ¥9.50&up Double room ¥18.00&up Single room with bath ¥11.50&up Double room with bath ¥21.00&up (後略)
昭和15	1940	この年の初め、詩人の堀辰雄が部屋を借り仕事場とした。
昭和16	1941	大量のドイツ人避難者が滞在(1次、2次) 6.22独ソ開戦
昭和18	1943	暖房ラジエーターの鉄類回収。
昭和19	1944	独逸大使館海軍武官事務所に本館明け渡し(東京空襲から避難) 6月15日～
昭和20	1945	占領軍接收。 米軍兵士の失火により二階建1棟(1350坪)焼失(12月15日)(「朝日新聞」12月26日)
昭和21	1946	出火(1月3日) 別館から出火。二階建130坪全焼。従業員宿舍他数棟のみ残る。(「朝日」1月5日)
昭和27	1952	麒麟麦酒株式会社が株式を取得、同社の出資比率は91.4%に。
昭和52	1977	鎌倉シーサイドテニスクラブ開設(9月19日)
平成22	2010	株式会社鎌倉海浜ホテル 鎌倉シーサイドテニスクラブ閉鎖終焉(6月30日)

参考文献 『明治屋百年史』(株式会社明治屋 昭和62年)・「鎌倉海浜ホテル発祥の由来」(鈴木三五郎原稿 昭和19年10月14日)・「海浜ホテル考」(相原典夫 「鎌倉」34 昭和55年5月)・『横浜のテニス百年の歩み』・「横浜貿易新報」・『鎌倉市史』・鎌倉文学館展示その他

二〇一四年(平成二六年)四月八日、海浜ホテル跡地に、鎌倉同人会創立一〇〇周年事業の一環としてホテルの記念碑が建立され、鎌倉市へ贈呈されました。当日は同人会会長山内静夫氏、松尾市長、市議会議長他の参列を得、晴れやかに除幕式が行われました。

明治二十年に海浜療養施設としてスタートした海浜ホテルは、昭和二十年まで約六〇年間、鎌倉の別荘地文化を象徴する施設として存続しました。同じく鎌倉同人会の一〇〇年の歴史も鎌倉の歴史や文化を体現していると思われまます。

ここに
鎌倉海濱院
鎌倉海濱ホテル
ありき

時宗教恩寺住職
東山勉書

モニュメント^③



2014年4月8日 記念碑除幕式にて

平成二六年度郷土資料展記録

図書館に集まったお宝たち

「ふるさと鎌倉展」

平成26年7月5日(土)～16日(水)
鎌倉市中央図書館3階 多目的室・廊下

図書館には、本以外にも昔の鎌倉を語る貴重な「物」が寄贈されています。いつもは書庫の片隅に眠っていますが、久しぶりにみなさんと対面したいと展示会場に並びました。かつては地域や個人の生活の中で活躍したものです。遠い「ふるさと鎌倉」を見ていただきたいと思います。

展示抜粋 (展示リーフレットより)

*稲荷講・念仏講の講中お道具 16点



右：稲荷講幟旗 (極楽寺仲町)



上：念仏数珠 (雪ノ下横大路)

◇かつて村々で行われていた「稲荷講」「念仏講」「庚申講」の多くは消えていき、一部の

お道具が図書館に寄贈されています。当番の家にお道具を飾り念仏を上げ、あとは煮しめなどのご馳走を食べ、話に花が咲いたという時代が昭和の初めまで長く続きました。稲荷講はこどもたちにとってもお菓子などが振る舞われる楽しい行事でした。

◇大船地区の念仏講中の半纏は、まだ土葬がおこなわれていた時期の墓掘り当番の着用したものです。「役割帳」には、山掛(やまがかり・穴掘役)という言葉も記録されています。◇今も行われている稲荷講などの写真(省略)。



上右：大船地区
念仏講半纏と
数珠

上左：鳶職半纏
など

*とび職 7点 ◇建築や消防には欠かせない仕事をして来た鎌倉の「鳶職」は伝統を守つ

て「木遣り唄」梯子(はしご)乗り(のり)、「纏振り(まといふり)」などの伝統芸能を引き継いでいます。

*高札(こうさつ) (寺分村) 3点

◇高札は江戸時代に庶民に法令を伝える手段として用いられ、宿場や辻、名主屋敷などに墨書して掲げられていました。慶応四年三月、明治政府が旧幕府の「高札」撤去を命じ、庶民に向けて最初の禁令五条を出し、新しい高札を掲げさせました。「五榜の掲示」といわれ、これらは旧家の蔵に百四十年余も眠っていました。高札5枚のうち2枚を展示します。



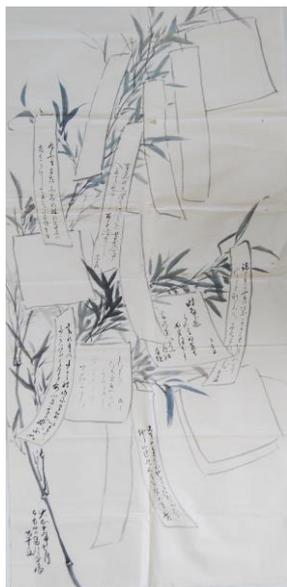
高札
上：「定人たるもの五倫の道を正しく…」

下：「覚今般王政ご一新に付き：外国ご交際の儀…」

左
永福寺瓦 拓本

*江戸時代古文書・俳句帖・文人寄書き11点 ◇江戸時代末から明治時代にかけて、鎌倉市

域の旧村における生活の記録が「御用留」(ごようどめ)や日記、俳句帖などの形で残っています。明治・大正期には新しく鎌倉に別荘を求めた人たちの交流の場が生まれ、文人たちの書きなども見ることが出来ます。



右：藤原草丘画七夕寄書き。歌人海上寿子の門人たちによる。大正十年七月



上：地元に残る明治時代の俳句帖

＊保養地・観光地鎌倉 34点

【鎌倉海浜ホテル 案内書 おみやげ等】

◇明治政府が普及につとめた「衛生思想」は海辺の生活、海水浴を医療行為としてとらえまされた。そのため海、山に囲まれ、史跡に富み、東京からも近い鎌倉は、明治10年代以降保養地・別荘地として町の姿を変えていきました。大正時代には全戸数の三分の一が別荘でした

が、その象徴のひとつが「海濱院」「海浜ホテル」でした。大正震災の打撃を受けたものの復興を遂げ、昭和10年前後に頻繁に出された英文のパンフレットは目を引きまます。また観光地として「鎌倉案内」本は地元でもたくさん出版されました。



＊町の活気 41点

【商店チラシ 手拭い マッチ 商店當座帳】



◇海辺の保養地として別荘が建ち、人口流



入が進む中、その需要に因るため、商店や土産屋、旅館が数を増し、町に活気がみなぎりました。健康のため牛乳の需要があり、牧場も経営され、海外経験のある新住人との交流を通して新しい生活文化が生まれました。東京からハイカラな店が出店しました。商店が配った銘入りの手拭いや御別荘から出入りの職人や商店に出された「半纏」も別荘時代を象徴するものです。商店のチラシにも当時の賑わいが見えます。

商店すぐろく



乾物通い



パンフレット



牛乳びん



展示ケース (「町の活気」)

漁船鑑札(材木座)





商店看板・チラシ・ポスター
商店写真パネル



手拭い (商店名入り御年賀)
左下:半纏 (別荘堀越家より出入り商店職人へ)

***大船田園都市11点【大船町役場建物遺構】**

◇大正時代、イギリスから学んだ田園都市構
想が東京周辺に実践され、そのひとつが大船に
も試みられました。その痕跡が街路などに残っ
ています。当時のマンホールの蓋や、最近まで
残っていた「大船町役場」(大船田園都市株式
会社施工)の遺構を紹介します。

o g cマンホール蓋
階段親柱



***町の土木遺構 2点**

【大仏坂トンネル古煉瓦 水道管】

◇膨張する町にとってインフラ整備は急務
の課題で、道路拡張、里道整備、トンネル開鑿、
水道設置などが進みました。その痕跡を拾って
みました。



煉瓦



昭和八年製
水道管

***関東大震災 4点**

◇相模湾を震源とするマグニチュード8ク

ラスの烈震に襲われた鎌倉は、家屋の倒壊、火
災、津波による壊滅的な被害を受けました。

鎌倉町役場「震災書類」は90年にわたり保管
されています。

***戦時中の鎌倉と鈴木富士弥市長 17点**

【祝入宮寄書き 軍服 鈴木氏大礼服等】

漫画帖 (大正十五年)

(右:若槻礼次郎

濱口雄幸

田中義一 楽天画)

(左:鈴木富士弥似顔絵

岡本一平画)



◇鎌倉は空襲はうけませんでしたが、満州事
変以来町は徐々に戦時色が濃くなってしまし
た。

◇戦時中に第2代市長(昭和15年12月く
昭和20年12月)を務めた鈴木富士弥は、中
央官僚として濱口雄幸内閣の書記官長を務め
た人物でした。鎌倉で静養中に偶然、文士久米
正雄に勧められて地方自治に貢献する決心を
したと伝わっています。旧鈴木家は現在材木座
「富士愛育園」になっており、大量の和装本・
掛け軸・大礼服など記念の品々が図書館に寄贈

されています。

***カーニバルと鎌倉文士たち 19点**

【横山隆一原画・カーニバルの旗と提灯】

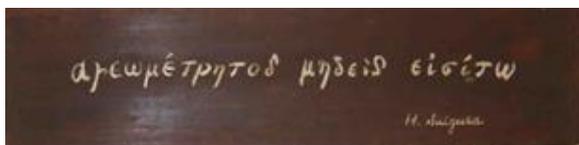
◇鎌倉文士達の提唱で昭和9年に始まった戦前のカーニバルは戦争の激化の中で昭和16年に中断し、戦後昭和22年に「復活カーニバル」として華やかに再スタートしました。広告宣伝の場所として映画界、放送界、企業のフロードが町中を練り歩き海辺を賑わしましたが、交通事情が悪くなり、昭和37年で終焉を迎えました。



***鎌倉アカデミア 4点【扁額(三枝博音作)】**

◇「鎌倉アカデミア」は戦後の荒廃の中、新しい世界の担い手を作ろうと、鎌倉でいち早く作られた大学校でした。「大学」への道は4年半で閉ざされましたが、自由と新生を求める知

識人と若者たちの熱い思いがここに凝縮しました。この場を築立った若者たちは戦後の日本に多くの貴重な足跡を残しました。



右の彫像は鎌倉アカデミア卒業生が作製した「校長 三枝博音像」

上の扁額には、ギリシヤの哲学者プラトンの箴言「幾何学を学ばざるものこの門に入るべからず」が三枝によってギリシヤ語で刻まれている。当時は、材木座光明寺の本堂と開山堂を結ぶ廊下頭上に掲げられていた。

***戦後婦人会の活動 16点**

【白梅婦人会・若竹婦人会会報など】

◇戦後民主主義の実現にいち早く取り組んだのが新しい地域婦人会でした。日常生活の中にも意気込みが伝わって来ます。当時の家庭で使われた生活用品も展示します。



***松竹大船撮影所 5点**

【映画台本 俳優宇佐美淳アルバム等】

***なつかしアルバム・画集など 7点**

【佐草金次郎画集 安田三郎・鈴木正一郎撮影鎌倉写真等】

***平和和都市宣言 2点**

【大内兵衛書 小島寅雄書(写真)】



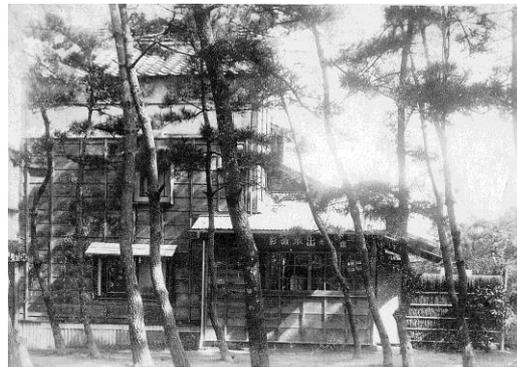
われわれは日本国憲法を貫く平和精神に基いて核兵器の禁止と世界恒久平和の確立のために全世界の人々と相協力してその実現を期する。歴史的遺産と文化的遺産を持つ鎌倉市はここに永久に平和都市であることを宣言する。
昭和三十三年八月十日
鎌倉市

寄贈資料紹介欄はお休みします。



常盤村地引絵図 (部分) 明治初期

＊深沢村地引絵図 2点【常盤・寺分】
◇「地引絵図」は明治政府が地租改正事業のため、村の田畑・宅地・寺社・山・川などを測量させ、地目、地番を付与し600分1の絵地図に編製したものです。一般に地籍図といわれています。常盤・寺分・梶原・上町屋・山崎・笛田の旧6カ村絵図のうち常盤・寺分を展示します。



都筑 (つづき) 写真館 今昔

古写真

震災後、現在地雪ノ下に新築された「都筑写真館」大正13年。裏面の葉書文には、5月に撮影室を増築したと書かれている。震災からの復興に懸命な頃である。

大正8年、現鎌倉女学院付近に開設。写真は10年頃。「現像 焼付 出張撮影」の看板が軒下に見える。



ということである。先人の努力を無にしないように保存していきたい。

「せきや」「みねノ下」「柳小路」「せんばや」となど地名が書かれている。この資料は現所蔵者平井雅明氏の父上平井知慈氏が昭和30年頃古い家から運び出し、大切に整理された

古文書

関谷 平井家文書

平井家に所蔵されていた江戸および明治時代の古文書資料643点の中に慶安4年(1651)の「名寄帳」(なよせちょう)がある。傷みが激しいが、縦27cm横17.5cm、袋とじの帳面である。当時の関谷村は松平正綱領であった。帳面には百姓名のあとに田(上田・中田・下田)と畠(上畠・中畠・下畠・下々畠)、屋敷地の広さとそれぞれの分米(石高)が記されている。百姓は忠右衛門他29名の名前がわかる。古い形式の分付百姓記載もある。田畑惣高は392石7斗3升9合、外1石5斗6升6合が御桑畑などとなっている。また

《インタビュ―(むかし語り)》③

あぐり船

加藤茂雄氏(長谷)

戦争が終わって、昭和二十年十二月から二十一年の三月頃まで漁師の「あぐり舟」に乗って手伝ったことがある。二艘の舟がセットになって左右から弧を描き魚を追い込む漁である。一艘に三人ずつ乗るので「六人舟」とも言った。若いもんは舟漕ぎの手伝いだ。エンジンなんか無い手漕ぎの時代だ。

先頭の小さな手舟に乗っている人が、最初に魚の群れを見つけた。右、左と動く魚の群れが、「こちらに向いたな」という瞬間、白い手拭いで合図をするんだ。これは目のある人じゃないと出来ない。すると二艘の舟が左右に分かれて七十メートルくらいの弧を描いて網を広げていくので魚の群れはその中に追い込まれる。

その日の大漁は忘れられない。巻いていった網の中で小魚が吹き上がった。魚は「このしろ」だったが、広い丸い網の形のとおり二十センチくらい吹き上がり、周りが霞んで見えた。

みんな興奮しながら杓ですくって、魚をどんどん舟にかい込んだ。小さな舟では間に合わないで、大きめの船、チョコ網を呼んでかい込んだ。それらはまるで札束に見えたんだ。

いくらかい込んで終わらず、作業は半日も

かかった。その日の漁場は江ノ島の沖、烏帽子岩の辺りだった。いつもなら坂ノ下に戻って小坪の仲買に売り渡すのだが、その日は葉山の鏡ざり港まで海上を運んで、大手の仲買に売った。終わったのがとうとう夜になってしまつて、われわれ手伝いの若者は逗子まで送ってもらい、スカ線で鎌倉に帰ったが、半纏に頬かむりの凄いかつこうで乗り込んだので、今でもその時のことが忘れられない。そのうえ、お昼に食べたものは蒸かし芋三本だけだったので、空腹は耐えられないばかりだった。その頃の鎌倉は食糧難で、みんな食べるものに不自由していた。



「あぐり船」模型 坂ノ下安齋氏作

漁師も、ご飯の入ったお鉢を抱えて舟に乗り込み、味噌と七輪で汁を料理して急いで掻き込むのが普通だったが、そのお鉢を持ち込む人も少ない時期だった。

こんなに豊かな漁場はその後だんだん消えていった。

大漁旗を掲げて、陸(おか)にまで響くかけ声で帰って行く事はだんだん無くなった。若者は漁師を継ぐ者もいたが、外に就職して離れていく者が多くなった。また昭和三十年代から五十

年代まで、機械あぐりをやる大手の船団が、由比ヶ浜沖や三浦半島で大量に魚を捕っていた。根こそぎといっても良いくらいだ。電探を持つている三つの船団が沖で操業していた。私が二十年余の「東宝映画」の仕事が終わり、浜に帰ってみると、世代が代わり、かつての漁師達は年を取り、浜で日向ぼっこをしているようだった。(平成二十三年聞き取り)

加藤茂雄氏は鎌倉長谷に生まれ、高等小学校卒業後、石川島の工員として働きながら夜は自習工業学校で学んだ。その後横浜市立工業学校(甲種)夜間機械科のちに建築科で学んだ。やがて応召があり、宇都宮で終戦を迎えた。昭和二十一年光明寺で始まった「鎌倉大学」演劇科に入学。卒業後、黒沢組助監督の廣澤榮氏(鎌倉アカデミア演劇科で同窓)に誘われ、俳優として「東宝」へ入る。黒沢監督の「七人の侍」百姓役で出ている。大部屋俳優としてその後二十年余数え切れないほど多くの映画に出演して来た。現在は浜で漁師の手伝いをしながら映画関係のトークに招かれることも多い。「俳優と漁師の二足の草鞋」と言われた時もあった。また八年目を迎える「鎌倉アカデミアを伝える会会長」として元氣にがんばっている。

「近代史資料室だより」第3号
発行 鎌倉市中央図書館近代史資料担当
平成二十六年十月一日